

令和3年度「芸術たのしみ広場開催業務」計画

2021年度倉吉文化団体協議会国際交流事業

新型コロナウイルス予防対応改訂版

鳥取県内写真作家との交流親善写真研修会の開催(2021.9.1～29)

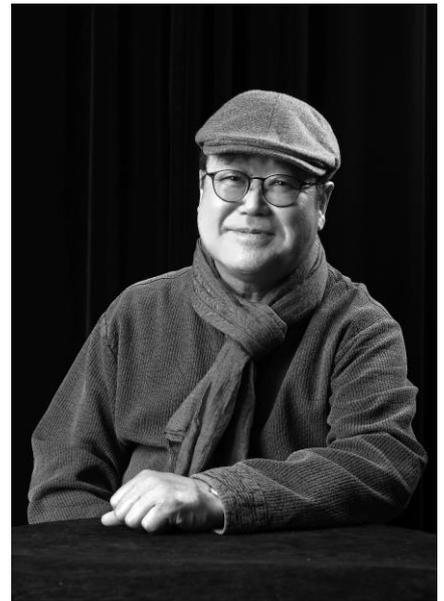
日韓親善写真家交流事業

① 吳一舟(オー・イルツ)写真展

河川～水の命～

《The water of life》

② シンポジウム「写真は何を表現するか」



主 旨 鳥取県と韓国江原道は久しく国際交流を続けています。そんな中で、倉吉文化団体協議会と江原道春川市在住写真家とは2013年以来毎年「写真家交流事業」を続けて来ましたが、今年度も新型コロナウイルスの影響で、日本～韓国便がストップしています。「オー・イルツ氏」の訪日が不可能と場合は、昨年度同様、既に届いている写真作品を国際交流展として予定通り倉吉市に於いて開催いたします。また、「オー・イルツ氏」を交えての**写真作家の交流親善を図るシンポジウム「写真は何を表現するか」は、県内の皆様だけで開催することになります。**

共 催 鳥取県・鳥取県文化団体連合会・倉吉文化団体協議会・倉吉市文化活動センター

後 援 倉吉市・鳥取県中部地区日韓親善協会・鳥取県写真家連盟・中部地区各写真団体・マスコミ各社へ申請予定

開催期日 展覧会期間 2021年9月1日(水)～9月29日(水)

シンポジウム 2021年9月5日(日) 13:30～

展覧会場 倉吉市文化活動センター リフレギャラリー

〒682-0817 鳥取県倉吉市住吉町77-1 0858-23-6095

シンポジウム会場 倉吉市文化活動センター1F 第一活動室

受け入れ 倉吉文化団体協議会会長 計羽孝之 e-mail:figarofigaro@do4.enjoy.ne.jp

担当者TEL090-1351-7574

内 容 ①会期は1ヶ月間とする。写真展に係る経費(写真のプリント、額装経費等)は主催者で負担。

②県内写真作家との交流親善写真研修会の開催(2021.9.5)

シンポジウム「写真は何を表現するか」シンポジスト/福島多暉夫氏(米子市写真家協会)・他県内写真作家・基調提案/コーディネーター/計羽孝之(リフレギャラリー・キュレーター)

日 程 2021.8.31(火) 13:00～「オー・イルツ写真展」展示作業

9.1(水) 9:30 「オー・イルツ写真展」開幕

9.5(日) 10:30 シンポジウム打ち合わせ

福島多暉夫氏・未定・

(倉吉市文化活動センターセミナー室)

11:50 昼食(白壁倶楽部)シンポジスト

13:30 写真展ギャラリートーク(担当/キュレーター)

13:45 歓迎ミニコンサート(出演/鳥取オペラ協会ソリスト)

氏(ソプラノ)・(ピアノ)

14:00 県文連芸術たのしみ広場

シンポジウム「写真は何を表現するか」の開催

(会場/倉吉市文化活動センター1F 第1活動室)

16:00 終了

18:30 シンポジスト懇親会(日本料理「飛鳥」) 倉文協役員参加

9.29(水) 「オー・イルツ写真展」閉幕

その他 展示について/キュレーターの指示に従って倉吉文化団体協議会事務局にて額装、展示する。

呉一舟(オー・イルツ)プロフィール

キャリア (経歴)

◎2007.2.1～2010.1.31 韓国演劇協会江原道支会長

◎2014.2.1～2015.1.31 春川国際演劇祭理事長

◎2016.1.1～2018.12.31 平昌冬季オリンピック江原国際美術展覧会民俗祝典組織委員長

◎2015.1.29～現在韓国写真作家協会春川支部の会員

◎2019.2.1～現在韓国写真作家協会江原道協議会副会長

個展

2013 “自然・人間・昭陽江” 写真展 春川アートギャラリー

2015 "白樺の美学" 展 春川Mデパートのギャラリー・麟蹄白樺ギャラリー

2020 "河川" 写真展 春川4Fギャラリー

団体展

○万海祝典 10回

○国際交流展 10回

○2019 江原道写真家協会会員展

受賞

2011 漢江歴史生態文化写真コンテスト 5回優秀賞

2016 麟蹄郡全国観光写真コンテスト金賞

2000 春川市民賞

2002 江原芸総功労賞

2004 江原道文化賞

2013 大統領表彰

2015 韓国芸総功労賞

2019 国務総理表彰

連絡 住所：春川市春川路 269 番路 31 (後坪洞)

メール oij8364@hanmail.net



写真展「河川」～水の命～ The water of life

呉一舟(オー・イルツ) 韓国江原道春川市在住

先史時代から人間の定住地は河川でした。人間はホモサピエンスの時代から、山や川岸に定着しながら、河を命の母として慕いながら、生きる幸せを夢想していました。

河川は、自分一人で突然生まれたものではありません。深い山の中、森の中の泉から湧き出た水が谷間を流れ下り小川となり、溪流となって合流し、大きな水の流れとなるのです。一筋の水の流れが小川となり、谷川となって、次第に大きな一筋の水流となるだけです。

地面から突然隆起したところが山であり、深く沈み、水が集まったところが海です。そして、人々が地に足をつけて住む土地は、多様な生物の生息地でもあり、自然界の全てであると言えるでしょう。しかし、山と海の間には、時間という巨大な生き物が生息した痕跡が河となっているのかも知れません。それは、まるで山と海が、河という血管で相互に絡んでいるかのようです。毛細血管のような小川が収束されて大河となり、全ての芥を受け入れる海に吸引されるのです。水の命は、河を流れ人生を抱きかかえながら母なる海に到達するのです。しかし、河のくぼみに留まる水は流れず、海に至る事が出来ません。

広く長く大きな流れを「河」といいます。山脈が大地の骨組みであれば、河川は地を這う血管です。河川というガイアの命の流れは、私達に多くの恵みをもたらし、生きる喜びをもたらしているのです。「水の命」その美しい河たちの表情は、全ての命を呑み込んでゆるやかに流れながら、何時までも語りかけるのです。